

学校教育目標	かしこく やさしく たくましく なかよく
目指す学校像	「夢と希望をはぐくむ楽しい向小」 ○児童の笑顔があふれる学校 ○教職員が全力で児童の力をつける学校 ○学校・保護者・地域が協働して児童に力をつける学校
重点目標	<p>◎誰一人取り残さない教育、個別最適な学びに向けて、積極的な取組の実践</p> <p>※子どもが「主体的に、本気で学ぶ授業」を創造し、子どもたちの「Well-being」の実現</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 確かな学力の向上を目指し、分かる、できる喜びを味わえる授業 2 教育相談体制の充実、積極的な生徒指導の推進 3 学校・家庭・地域が連携・協働したコミュニケーション力の育成 4 児童一人ひとりを大切に、美しくきれいな安心・安全な環境における豊かな心の醸成 5 学び続け、指導力をつけ、子ども一人ひとりの良さを認め、プロとしての誇りをもつ教師

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校自己評価							学校運営協議会による評価		
年度目標					年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<p>学びの質の向上</p> <p>(現状) ○授業規律を守り、学習活動に積極的に参加する児童が多い。 ○学習状況調査では、概ね良好な結果である。 (課題) ○自ら新しい学びに挑戦し、開拓する児童が少ない。 ○昨年度の全国学力・学習状況調査の結果分析から、国語の思考力・判断力・表現力等の「書くこと」「読むこと」について、算数の思考力・判断力・表現力等について目的に合った数の処理に課題がある。</p>	・学ぶ楽しさを実感できる楽しい、魅力的な授業の創出	<ol style="list-style-type: none"> ①「さいたま市『アクティブ・ラーニング』型授業」の学習プロセスを明確にした指導とカリキュラムマネジメントを意識した、授業改善を行う。 ②タブレット端末の効果的な活用による「学びの自律」と「個別最適な学習」そして「協働的な学習」の実現を図る。 ③答えが1つではない問題に取り組みさせる問題解決的な学習の計画的な実施を進める。 ④コーチングの視点を導入した「教えない授業」の実施→「教える」から「学習者が主体的に学ぶ」授業を進める。 	<ol style="list-style-type: none"> ①「学びの指標」アンケートの因子①因子④が市平均より高いか。 ③教員アンケートにおいて「実施することができた」の回答が8割を超えたか。 ③教員アンケートにおいて、授業の中に「主体的に学ぶ」授業が構築されたという回答が8割を超えたか。 					
2	<p>子どもの発達や心のサポート</p> <p>(現状) ○昨年度の学校評価で「先生は児童や保護者の相談にのっている」の質問に肯定的回答をした児童の割合は91%であった。 ○特別活動(児童会活動)による積極的な生徒指導を行っている。 ○教育相談アンケートによる相談しやすい環境作りを図っている。 (課題) ○児童自らより良い集団や学校にするという形成者としての見方・考え方に課題がある。</p>	・児童一人ひとりへの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実 ・積極的な生徒指導の実践	<ol style="list-style-type: none"> ①「おはようメーター」やなかよしアンケート等実施し、必要に応じた個人面談を行い、記録を蓄積し、児童一人ひとりの状況を継続的に把握できるようにする。 ②教育支援・相談に係る校内委員会でICTを活用することで、蓄積した情報を基に児童の状況を細やかに把握、分析し、指導・支援を行う。 ③SoLa るむの効果的な活用を推進する 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が98%以上(昨年以上)になったか。 ②児童の実態調査や検証授業の協議結果で向上している評価となったか。 					
3	<p>地域とともにある学校づくり</p> <p>(現状) ○防犯ボランティア等、自治会・育成会を中心としたスクールサポートネットワークからの支援を得ながら、地域と学校の協働活動が実施されている。 ○コミュニティ・スクールの協働活動として、あいさつ運動や中庭の整美活動を実施している。 (課題) ○組織的・継続的な連携・協働体制には至っていない。</p>	・協働体制による児童育成の状況を地域全体で共有するための広報促進 ・支援から連携・協働体制への転換促進	<ol style="list-style-type: none"> ①本校のホームページにおいて、学校行事等各コンテンツの内容に合わせた適宜更新を丁寧に行うことで、学校に関わる方が情報を収集しやすくなる。 ②学校運営協議会において、コミュニティ・スクールとしての成果・課題・改善策を熟議し、スクールサポートネットワーク等と共有することで組織的・継続的な連携・協働体制を構築する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①コミュニティ・スクール協働活動等の情報配信で広報を促進できたか。 ②学校だより等の配信はタイムリーに効果的に行うことができたか。 					
4	<p>教育環境の整備</p> <p>(現状) ○昨年度の学校評価で「学校では安全で清潔である」の質問に肯定的回答をした児童の割合は92%であった。 (課題) ○校庭の遊具は雨風にさらされているため、常に点検が必要である</p>	教育環境の整備	<ol style="list-style-type: none"> ①毎月の安全点検を複数の目で実施する。修繕や改善が必要な場合の迅速対応を行う。 ②教育環境の整備を計画的に実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①学校評価に係る関連する項目の肯定的な回答が92%以上(昨年以上)になったか。 					
5	<p>(現状) ○平均年齢が約37歳、平均経験年数が約11年と比較的若い教員の学校である。 ○教職経験の浅い教員が多く、生徒指導や保護者対応など十分ではない。 ○4月の時間外在校時間80時間以上が7人いる。 (課題) ○学年主任の後任をできれば校内から出せるように教員の資質向上をさせたい。 ○児童数が多く、若い教員も多いので、危機管理意識を高める必要がある。</p>	・教職員のミドルリーダーを育成し、服務規律を守る学校	<ol style="list-style-type: none"> ①校長、教頭、教務主任が全教職員の授業実践を参観し、指導助言を行う。 ②全国教員研修プラットフォームを活用した研修奨励を行い、個々の教職員が自らの課題を意識した授業研究を年間2本以上実施する。 ③事故・不祥事防止チェックシートを実施し、一人ひとりが服務規律の確認。 ④時間を意識して業務を遂行できるように、終了時刻を明示した会議・仕事等を行う。 ⑤毎週水曜日のノー残業デーのほか、月1回定時退勤日を設定する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①全ての教員が「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、日常的にICTを活用する状況になったか。 ②「研修プラットフォーム」をもとにした資料を、教職員の主体的な活用や、管理職による奨励の促進に運用できたか。 					